

## 「2019年度実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」参加報告

報告：防災委員 栗飯原律子

### \* 講座概要 \*

#### 第1回 10/10

「災害リスクの相互認識と共有する地域の防災・減災対策のすすめ」

講師：神奈川大学工学部教授 防災塾 だるま塾長 荏本孝久 氏

地域の被害規模の極小化が基本：防災リーダーになる自覚必要。減災対策のすすめ：過去のデータ分析の必要性。過去に災害があった場所に家を建てるのは不可。建築士の役割の重要性痛感。(以下略)

#### 第2回 10/17

「大学と地域が連携した安全な避難など防災力向上への取り組み」

講師：東海大学工学部土木工学科教授 梶田 佳孝 氏

「自然災害から身を守る災害地質の知識」

講師：(株)環境地質代表取締役会長 稲垣 秀輝 氏

建築士として地盤の十分な知識が必要。感震ブレーカー設置の義務化も視野に入れる必要あり。

#### 第3回 10/31

「シミュレーションで学ぶ災害時の要配慮者トリアージ」

講師：清泉女学院大学看護学部 国際・災害看護学教授 小原 真理子 氏

<https://www.youtube.com/watch?v=XONWWRM7buY>

避難所立ち上げ直後に検討すべき事について熟知必要。

「もしもに備える、いつもに活かす～男女共同参画で身近な防災・減災を見直そう」

講師：男女共同参画センター横浜北館長 常光 明子 氏

ボランティアや被災者の女性が性暴力に遭う現実。女性の絆が重要。チェックリストの重要性。

#### 第4回 11/7

「災害リスクと対応を老若男女が共有して災害に立ち向かえる地域社会づくりを考える」

講師：地学会会員・防災士 鷲山 龍太郎 氏

元小学校校長としての実践報告。

「発災対応のススメ～防災訓練から発災対応訓練へのギアアップ」

講師：(公社) SL 災害救援ボランティアネットワーク上級セーフティリーダー 畑 謙司 氏

最重要は発災対策訓練。ハイゼックス・米・水・凝固剤は必須。PP 提供あり。

#### 第5回 11/14

「横浜市の防災対策 ～自助・共助・公助への取組～」

講師：横浜市総務局危機管理室危機管理部地域防災課担当係長 時枝 道太 氏

「地域みんなで工夫した時系列に沿った地震対応訓練」

講師：平塚市崇善地区防災部長会副会長 田島 和則 氏

#### 第6回 11/21

「防災はまちづくり！顔を合わせ、言葉を交わし、支え合うまちを作りたい！」

講師：関小 氏ブロック防災協議会運営委員長・地域自治会防災保全部長・防災士 江上 健 氏

任期のない防災担当者・無線機の活用、消火器の場所を地図に落とし込む必要性あり。(以下略)

※ 毎回「アイスブレイク」で、「防災めぐり」の紹介あり。

## \*講座に参加して\*

いつ大規模地震が起こっても不思議のない今、どう備えたらよいか、喫緊の課題と頭では分かっているけど、正常バイアスに身をゆだね、準備ができていない現実。今、一人一人の意思が試されています。

最も印象に残った第4回 11/7「発災対応のススメ～防災訓練から発災対応訓練へのギアアップ」(公社) SL 災害救援ボランティアネットワーク上級セーフティーリーダー畑謙司氏の講演をご紹介します。



### 「準備ゼロ・備蓄ゼロをなくす」

・防災とは「災害を知る」「被害を想定する」「知識と知恵と人材を備蓄する」「障害要因を事前に取り除く行動」。

「災害お客様心理」が蔓延する理由は防災訓練にあった！

・「テントが設営されていて、テーブル・椅子がセッティングされている」→防災倉庫がどこにあるか？知らない！テントの立て方も分からない？

・「ご飯が炊かれて、カレーライスとお味噌汁の配給を受ける」→釜も竈もどこにある？火の起こし方さえしらない。発災時貴重なはずの水をじゃぶじゃぶ使い、御コメを研いで皿や釜を洗う。

・「用意された消火器で初期消火訓練を行う」→自宅周辺の消火器がどこにあるかもわからない。

こんな防災訓練はもういらない！

### 「防災拠点運営委員会」

避難所運営・備蓄品管理・応急手当・仮設トイレ・緊急搬送・資機材取扱・炊き出し訓練・情報伝達・消火活動・救出活動・AED・救命処置・発災対応訓練企画を自ら行う。発災したら、消防署や消防団には頼れない。

### 地域に人材を備蓄する。

「出来る人」「教えられる人」「地域住民・拠点防災ボランティア」…単年ではできないことが課題。

現実…「教える」どころか、食料や水を備蓄している人は住民の5割。

★手ぶら避難は絶対ダメ！食料・飲料水・毛布・座布団、必要なものを持って避難★

防災倉庫備蓄品→皆様に行き渡るほど備蓄品はない。食料・水の提供はすぐに開始できない。

「自分の命は自分で守る」最低でも7日間ライフラインが全部止まっても生きるために、今一度点検を！



第1回 10/10「災害リスクの相互認識と共有する地域の防災・減災対策のすすめ」講師：神奈川大学工学部教授防災塾だるま塾長荏本孝久氏。減災対策のすすめ：過去のデータ分析の必要性和過去に災害があった場所に家を建ててはいけないとのこと。建築士の土地に対する知識と良心が問われる。

第2回 10/17「自然災害から身を守る災害地質の知識」講師：(株)環境地質代表取締役会長稲垣秀輝氏

「役立つ地盤リスクの知識」「法律家・消費者のための住宅地盤 Q&A」の紹介。ここでも、地盤について、建築士として十分な知識が必要と痛感しました。崖・盛土の危険の見分け方を会得すべきだということ。正常バイアス(根拠のない安心)に陥らないことを肝に銘じました。

感震ブレイカーの設置は減災に必須と分かりました。建築士会でも広報すべき。できれば、義務化したほうが良いのでは、と感じました。

—以下略—